

大腸は多発癌の発生しやすい臓器である。したがって大腸癌を1個認めたときは同時性、異時性の大腸癌を見逃さないように臨床的に対応する必要がある。治療後にも異時性多発癌の存在を十分に意識しながら follow-up を行うことが肝要であり、今回の論文にても異時性癌の発生は2、3年の比較的早い時期と10年以降の遅い発生の2峰性があることが示されている。そのことは異時性多発癌には初回の見逃し例と clean colon からの新たな癌の新生の両者があることは想像に難くない。しかし一方において異時性多発癌では発育速度の速い *de novo cancer* の存在も無視できない。泉論文、今井論文に示されるように多発癌において早期癌の形態は表面型が多く、なかでも表面陥凹型の発生の意義が重要視される。

過日、第51回大腸癌研究会が同テーマで行われたが、異時性癌症例で早期癌がなくすべて進行癌という施設も多くあった。陥凹型早期癌は臨床的に見逃されやすい形態でありX線や安易な内視鏡での check は難しいことを示しているのかもしれない。表面型大腸癌は注意深い観察で発見されるものであり、大腸癌の high risk group である大腸癌術後症例ではこのような表面型、なかでも陥凹型を決して見逃さない臨床の姿勢が必要だろう。本号では形態、発生部位のほかに HNPCC、分子生物学的特徴など様々な観点から論じられたが、21世紀を目前に控え、現時点での通常の大腸癌の常識が今後どのように変わっていくのか、それを教えているようで興味深く読ませていただいた。

胃と腸

8月号(第35巻・第9号) 予告

発売予定 8月25日
定 価 (本体2,300円+税)

主題／薬剤性腸炎—最近の話題

序 説	薬剤性腸炎—最近の話題	川崎医大・消内	飯田 三雄
主 題	薬剤性腸炎の起因薬剤と病態・発生機序	旭川医大・3内	斉藤 裕輔・他
	抗生物質起因性腸炎の臨床像と鑑別診断	名古屋掖済会病院・消化器科	林 繁和・他
	NSAID 起因性腸病変の臨床的検討	北里大東病院・消内	五十嵐正広・他
	NSAID 起因性下部消化管病変の臨床像		
	—腸炎型と潰瘍型の対比—	九州大・光学医療診療部	松本 主之・他
	非ステロイド系抗炎症剤(NSAID)起因性腸炎の		
	病理組織学的特徴と鑑別診断	九州大・形態機能病理	八尾 隆史・他
主題症例	偶発の再投与で再発したビリン系解熱鎮痛配合薬による		
	出血性大腸潰瘍の1例	川崎医大・消内	小堀陽一郎・他
	NSAIDs坐薬による直腸潰瘍の2例	大阪市大・3内	中村 志郎・他
	転移性肝癌に対して抗癌剤動注療法により惹起された		
	広範な胃・十二指腸潰瘍の3症例	昭和和大豊洲病院・消化器科	嶋田 顕・他
	5FUの持続動注療法中に大腸炎を発症した1例	癌研病院・内科	福田 好世・他

胃と腸 (第35巻 第8号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802/3815-7982

E-mail: itocyo@igaku-shoin.co.jp

2000年7月25日発行(毎月25日発行)

1部定価(本体2,300円+税)(配送料116円)

2000年年ぎめ予約購読料35,140円

(2号分の増刊号を含む14冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎(03)3814-8541

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 2000, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

•  <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

• 医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当) 永安・小長谷・小松原・向山